筑波大学
グローバルコミュニケーション教育センター　国語部門

共通科目

「国語」

筑波大学
University of Tsukuba

＊『きりのは』（桐の葉）プラン＊

国語部門では、以下のような『きりのは（桐の葉）』プランを掲げ、国語教育を推進しています。

＊『き』「基礎知力形成」のための「基礎教育」

・大学での学修の基礎となる思考の基盤を母語の力を通じて形成します。

＊『り①』「理知的思考」

・他者に対する発信を意識した思考・伝達の技能・コミュニケーション力を育成します。

＊『り②』「留学生対応」

・留学生が日本でのキャリア育成に不可欠となる高度な日本語表現力の育成を支援します。

＊『の』「能動的表現者育成」

・自己の見解を積極的に発信する態度や技能を育成します。

＊『は』「汎用的な表現技能（発信力）の育成」

・外国語学習への効果も視野に入れた母語教育を目指します。

「国語」担当教員

教　員　名	担当クラス	
	国　語　Ⅰ	国　語　Ⅱ
石塚　修 人文社会学系棟Ａ６０９ ishizuka.osamu.fu@u.tsukuba.ac.jp	比文１班 体育５班	比文１班 体育５班
今田　水穂 人文社会学系棟Ａ６１２ imada.mizuho.gf@u.tsukuba.ac.jp	日・日 資源３班 医学１班 看護１班 体育２班	日・日 体育２班
大倉　浩 人文社会学系棟Ａ６１６ okura.hiroshi.gp@u.tsukuba.ac.jp	人文１班	人文１班
菅野　倫匡 人文社会学系棟Ｂ４１２ kanno.michimasa.ge@u.tsukuba.ac.jp	資源１班 体育１班 医学２班	体育１班
島田　康行 アドミッション・センター shimada.yasuyuki.fb@u.tsukuba.ac.jp	比文２班	比文２班
田川　拓海 人文社会学系棟Ａ６１３ tagawa.takumi.kp@u.tsukuba.ac.jp	人文２班 看護２班 体育４班 全学（月３，春）	人文２班 体育４班
那須　昭夫 人文社会学系棟Ａ６１５ nasu.akio.ge@u.tsukuba.ac.jp	人文３班 体育３班	人文３班 体育３班
朝日　祥之　（非常勤） yasahi@ninjal.ac.jp	全学（月５，春）	全学（月５，秋）
石川　格　（非常勤） itaruishikawa@mac.com	全学（水２，春）	全学（水２，秋） 全学（水３，秋）
小林　和子　（非常勤） kobayashi.kazuko.ge@u.tsukuba.ac.jp	医学３班 全学（月３，秋） 全学（水２，春）	全学（水２，秋）
永田　里美　（非常勤） nagata.satomi.ge@u.tsukuba.ac.jp	体育６班	体育６班
笠原　紀昭　（非常勤） kasahara.noriaki.fn@u.tsukuba.ac.jp	資源２班 全学（水２，春） 全学（水３，春）	

(注)「春、秋」は学期を表します。春：春学期 AB　秋：秋学期 AB
国語Ⅲ（2018 年度以前入学の人文学類生対象）は今田・大倉・石塚・田川・那須が共同で担当します。

磨け自己の国語力

大学生となった皆さんは、対話・討論・レポート・論文など様々な言語表現に本格的に取り組んでいくことになります。本学の共通科目「国語」は、これからの大学での学修、さらに卒業後の生活においても必要とされる母語・日本語の言語表現技能を深化させるための科目です。高校までの国語科の学力不足を補填するための補習科目ではありません。

言語表現は思考を司る重要な要素であり、その運用は、自己の知識・教養・思想の基盤を形成する際に欠かすことのできないものです。そのため「国語」では次の四つの能力を育成していきます。自分の国語力を磨こうとする皆さんを待っています。

＊「考えぬく」：問題発見能力

大学ではマニュアルのない中で自ら課題を設定して探究する力が、あらゆる分野において求められます。明確な見通しを備えた論を自ら構成する作業を通じて、主体的に考えぬく力を育成します。

＊「調べぬく」：問題探究能力

調査方法は研究分野によって様々でも、自説と他説を明確に区別することは、学術研究の基本です。先行研究のリサーチ・解説・引用など、学術的文献情報を調べぬく基本を身につけます。

＊「書きぬく」：論述表現能力

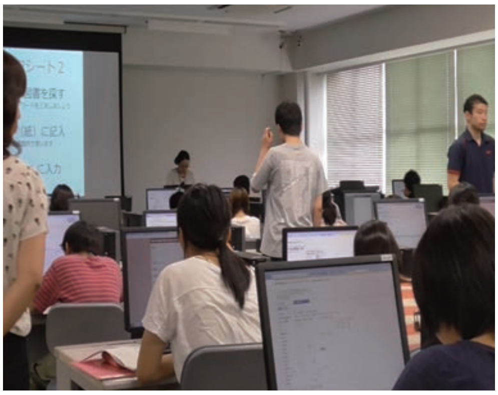
大学生の手始めとして 2000 字程度の文章を仕上げることを目標とします。パラグラフの構成や文章表現を工夫しながら自力で文章を書きぬく力をより幅広く確実にするために、表記法や語彙についての国語基礎教養の育成も行います。

＊「伝えあう」：相互理解能力

自分の意見ばかりを一方的に発信するのではなく、他者の発信した情報も確実に読み解く力が求められます。レポートの相互批評等の取り組みを通じて、伝えあう力（コミュニケーション能力）の向上を目指します。

「必修クラス対象科目」と「学群・学類の指定のない科目（全）」について

- 「国語」を必修科目とする学群・学類（人文学類、比較文化学類、日本語・日本文化学類、生物資源学類、体育専門学群、医学類・看護学類）と総合学域群 1、2 組では、班分けと時間割が固定しています。
- 選択・自由科目として履修する皆さんには、学群・学類の指定のない科目（国語Ⅰ・国語Ⅱ）が各学期に設定されています。



＊国語時間割表（2023 年度）

（注）1.「国Ⅰ」「国Ⅱ」「国Ⅲ」はそれぞれ「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」「国語Ⅲ」
2.「資源 1」「資源 2」等の数字は班番号を表します。総合学域群 1
3.「全」は全学群対象の科目ですが、主として対象とする学群・学類

曜日／時限	月		火			
	春学期 AB	秋学期 AB	春学期 AB	秋学期 AB	春学期 AB	
1						
2					国Ⅰ全 国Ⅰ全 国Ⅰ全	
3	国Ⅰ医学 1 国Ⅰ医学 2 国Ⅰ医学 3 国Ⅰ全	国Ⅰ看護 1 国Ⅰ看護 2 国Ⅰ全			国Ⅰ全	
4						
5	国Ⅰ人文 1 国Ⅰ人文 2 国Ⅰ人文 3 国Ⅰ比文 1 国Ⅰ比文 2 国Ⅰ日・日 国Ⅰ全	国Ⅱ人文 1 国Ⅱ人文 2 国Ⅱ人文 3 国Ⅱ比文 1 国Ⅱ比文 2 国Ⅱ日・日 国Ⅱ全				国Ⅰ
6						国Ⅰ

＊「国語」のためのおすすめ本

- 荒木晶子・向後千春・筒井洋一（2000）『**自己表現力の教室**』（情報センター出版局）
- 石塚　修・今田水穂・大倉　浩・小針　誠・島田康行・田川拓海・那須昭夫（2022）『**日本語表現 & コミュニケーション 改訂版 ―社会を生きるための 22 のワーク―**』（実教出版）
- 梅棹忠夫（1969）『**知的生産の技術**』（岩波新書）
- 大阪工業大学言語表現技術研究会（2005）『**言語表現技術ハンドブック**』（晃洋書房）
- 大島正二（2006）『**漢字伝来**』（岩波新書）
- 大野　晋（1999）『**日本語練習帳**』（岩波新書）
- 木下是雄（1981）『**理科系の作文技術**』（中公新書）
- 木下是雄（1994）『**レポートの組み立て方**』（ちくま学芸文庫）
- 酒井聡樹（2007）『**これからレポート・卒論を書く若者のために**』（共立出版）
- 佐渡島紗織・吉野亜矢子（2008）『**これから研究を書くひとのためのガイドブック**』（ひつじ書房）

を表します。ただし「国語Ⅲ」は 2018 年度以前入学の人文学類生用の科目です。
、2 組の学生は人文、比文、日・日、および全学（月 5）の各班に振り分けられます。
項が指定されています。詳しくは開設授業科目一覧の備考を確認してください。

水		木		金	
春学期 C	秋学期 AB	春学期 AB	秋学期 AB	春学期 AB	秋学期 AB
		国Ⅰ体育 1 国Ⅰ体育 2 国Ⅰ体育 3	国Ⅱ体育 1 国Ⅱ体育 2 国Ⅱ体育 3	国Ⅰ体育 4 国Ⅰ体育 5 国Ⅰ体育 6	国Ⅱ体育 4 国Ⅱ体育 5 国Ⅱ体育 6
	国Ⅰ資源 1 国Ⅰ資源 2 国Ⅰ資源 3 国Ⅱ全 国Ⅱ全				
	国Ⅱ全				
Ⅲ人文					
Ⅲ人文					

- 澤田昭夫（1977）『**論文の書き方**』（講談社学術文庫）
- 三森ゆりか（2003）『**外国語を身につけるための日本語レッスン**』（白水社）
- 田嶋幸三（2007）『**「言語技術」が日本のサッカーを変える**』（光文社新書）
- 戸田山和久（2002）『**論文の教室 ―レポートから卒論まで―**』（NHK ブックス）
- 長尾　真（2001）『**「わかる」とは何か**』（岩波新書）
- 野口悠紀雄（2002）『**「超」文章法**』（中公新書）
- 橋本　修・安部朋世・福嶋健伸（2008）
  『**大学生のための日本語表現トレーニング**』（三省堂）
- 松浦年男・田村早苗（2022）
  『**日本語パラグラフ・ライティング入門 ―読み手を迷わせないための書く技術**』（研究社）
- 山鳥　重（2002）『**「わかる」とはどういうことか ―認識の脳科学**』（ちくま新書）

詳しくはシラバスへ

■「グローバルコミュニケーション教育センター」のトップページ：
http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/

■「国語部門」のトップページ：
http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/page/dir000556.html

■KDB（Webシラバス）：
https://kdb.tsukuba.ac.jp

連絡先

グローバルコミュニケーション教育センター　国語部門

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-2426　　FAX 029-853-6616